

35. Dowry as Female Competition
36. When are husbands worth fighting for?

35. Dowry as Female Competition - 女性の競争として新婦持参金

Steven J. C. Gaulin

James S. Boster

P.362

para1

◇ bridewealth - 一般的 / dowry - 珍しい

- Standard Cross-cultural sample (標準比較文化サンプル)

① brideprice, brideservice(⇒bridewealth) : 186 社會中 97 (52%)

② Dowry : 186 社會中 12 (6%)

- Ethnographic Atlas (民族誌 Atlas)

① brideprice, brideservice(⇒bridewealth) : 1267 社會中 839 (66%)

② Dowry : 1267 社會中 35 (3%)

para2

◇ Dowryは子午線あたりと東アジアの社會には必須的に禁止 ← Jacksonと Romneyは dowry
が最近 発生したからと判断 (∵ 普遍的概念とは違いがある)

∴ どんな要素がこの地域内での分布を説明できるかに関する質問を残す。

para3

◇ 筆者ら - dowryの稀少性とそれを行う社會から何故発生したかに対して説明を試みる。

⇒ 夫に対する女性たちの間に競争形態としてdowryを解釈してモデル化する。

para4

◇ BoserupのDowryに関する解析の再検討

- 農耕活動の性的区分の結果として解釈

- 社會を大きく2種類形態で区分

・ brideprice社會 : 農耕活動で女性の高い寄与(swidden system-焼畑體系)、

女性の生殖が強いと経済的な自律が高い、高い一夫多妻婚の発生率が高い

・ dowry社會 : 農耕活動で女性の低い寄与(plow-cultivation system-犁耕作)、

夫の経済的な支援に依存する女性と子供の比率が高い、一夫多妻制の発生率が低い

⇒ 女性と子供に対する未来の支援を保障するために、女性によって作れる支給物と判断

The Model: Dowry as female competition

para5

- ◇ Homo sapiensに女性競争モデル - 無意識的生殖的な戦術で解析ができる。
- ◇ 筆者ら - 結婚相手に対する競争としての性向を反映 → 結婚買の性向を解析
 - ⇒ bridewealthとdowryの分布差異：男性たちが妻に対する競争頻度 ≠ 女性たちが夫に対する競争頻度

P.363

para1

- ◇ dowryとbridewealthは親と他の親戚たちが時々財産を集めて助けたり、結婚契約を協商
 - ∴ 結婚相手に対する競争 (又は dowry、bridewealth)は結婚当事者だけの問題ではない。
 - ⇒ ネオダーウィン説の観点：個人たちは未来世代に彼らが持つ遺傳的な表示を最大限に拡大させるために財産を配分

para2

- ◇ 親による一定な投資 → 息子に投資する時、より多い孫を出産? ⇐ bridewealthが発生
 - 娘で投資する時、より多い孫を出産? ⇐ dowryが発生

para3

- ◇ 女性競争モデルの発達 - Oriansの“一夫多妻制の発端”の説明を必要
 - Orians：男性はより多い女性の相手がより多い子息を出産するためにほとんどいつも、一夫多妻制をより好むと認識
 - ↓
 - ・ Q：なぜ、一夫多妻制は全世界的に存在しないか?
 - ・ A：交配體系が女性と男性の関心の間で動的な緊張から由来するとこと、一夫多妻が女性同じようにそれを選び好むだから出現するとこと

para4

- ◇ Oriansの一夫多妻制の発端モデル(又は“財産-防御の一夫多妻制”モデル)
 - 男性が子息の生産に対して女性で實質的な財産に接近を提供したり、制御する、ほかの場合を分析するために使われる。
 - ⇒ 女性は財産の最上の供給を提供する男性を選び好む(∴もっと高い生殖的な成功ができるから)
- ◇ すべての男性がほぼ同じ財産を供給 → 女性を差別的に誘惑できない。

↓

この時、女性の選擇 → その男性の唯一の妻になること

para5

- ◇ 不規則な財産の分配 → 一夫多妻制を促進
 - ⇒ 富裕な男性たちが魅力的な配偶者になるから、女性たちはより富裕な男性と夫婦になりたいという
 - ↓
 - 1番目の女性 - 1番目の金持ち男性と結婚
 - 2番目の女性 - 2番目の金持ち男性と結婚
 - ...
 - N番目の女性 - N番目の金持ち男性と結婚
 - ∴ 女性はN番目に豊かで、配偶者がいない男性を選ぶ。
 - しかし、どんな富裕な男性が持つ財産の半分は、どんなN番目の男性が持つ財産の

すべてより多い場合が発生 ∴ 女性は一夫多妻制を選ぶことになる。

- ◇ “夫婦になる時点から女性は最も利用できる財産とともに男性を選ぶ”とする見解
→ 女性が最上の選択 ⇒ “理想的な自由一夫多妻制”
- ◇ 理想的な自由一夫多妻制の下で、男性の財産とその女性パートナーの数は相関関係が存在
P.364

para1

- ◇ 理想的な自由一夫多妻制の反語的な結果：男性の差別的な魅力を消滅させる。
⇒ 平均より5倍、富裕な男性は平均より5倍、多い配偶者を所有、
平均より4倍、富裕な男性は平均より4倍、多い配偶者を所有
…
平均よりN倍、富裕な男性は平均よりN倍、多い配偶者を所有
∴ 女性たちはいくら多い、いくら少ない共同妻(cowive)と共存しても、同じように分かれる財産を所有することになる。

para2

- ◇ 男性たちが同じくらいの財産を所有-女性はその男性たちからひとりてに一つの分類基準を立てる
” 差別的な財産所有 - 女性は富裕な男性に密集

para3

- ◇ 一夫一妻制：男性と女性の生殖的な成功から変化はほぼ同じ
→ 一人の配偶者から出産できる子息の数は制限されている。
- ◇ 一夫多妻制：男性の生殖的な成功から変化は増加
⇒ 多数の配偶者から一度で多くの子息を出産
∴ 親たちはbridewealthとして投資することによって、彼らの孫の数が増加することを期待
- ◇ しかし、このパターンは人間の結婚体系のすべての範囲を含まない。

para4

- ◇ 一部の社会は高い段階の社会階層化と男性の間で差別的な強力な富として特徴づけられるが、それでも一夫一妻制で存在

para5

- ◇ 一夫一妻制の社会の階層化：財産から大きな差異はそれが追加的な妻の獲得によっても、減少されない男性たちの間で存在
↓
富裕な男性と一夫一妻で結婚する女性は彼女の子息のための彼の財産のほとんどをもつことができるという豫想
↓
相対的に富裕な男性と結婚する女性は相対的に富裕ではない男性と結婚する女性より、もっと大きな生殖的な成功を楽しむことになる。
- ◇ Dowry：一夫一妻制の社会で富裕な夫に対する女性競争の意味で解析

Methods

P.365

para1

- ◇ 先、分析した各々の仮説はdowryが特殊な環境の結合の下からだけ発生することで、豫測
- ◇ 比較的な、又は“比較文化的な”方法はそんな仮説を検証することで、理想的

Operationalization of the Variables 実用的 演算化

para2,3

- ◇ dowry - 從屬的變數 (慣習の範囲でdowryとして含むために論議が必要)
- ◇ Goody、Schlegel、Eloulは多い社會がbrideprice(民族誌 Atlas 著者らが“間接的なdowry”で呼ぶ)の實際的な慣習を行う → 民族誌 Atlasでコード化する。
- ◇ true bridepriceの場合で、新郎は新婦の男子親戚に重要なitemを渡す。

↓

間接的なdowryの場合で、表面的に類似 → しかし、bridepriceを維持するが、新婦の男子親戚たちは新婦にすべてまたは相當な分け前を傳達

para4

- ◇ Goodyは間接的dowryとともにdowryをグループ化
→ 社會内で、財産の分散と移動に注目したから。
- ◇ 筆者らは支払いの出處で注目するべきから、dowryから間接的 dowryを分離させる。

para5

- ◇ 從屬的變數とすべての獨立的變數 - 民族誌Atlasの1986年オンラインバージョンに根據
- 結婚の形態に基礎した2分法コードを形成(col.6)

↓

- ・ dowryが典型的な慣習である社會からdowryをコード化
- ・ その以外の場合からdowryの不在としてコード化

para6

- 女性競争モデルから獨立的變數 - 社會的な階層化と結婚の形態 (col.65)
 - ・ “elite”, “dual”, “complex”社會階層を持つことにコード化 になれば、→ 階層化した 社會
 - ・ それがなければ、→ 非階層化した社會
 - 一夫多妻制で女性は夫の財産に対して共同妻と競争するべき。
→ 一夫一妻制、一妻多夫制にはそんな競争が要らない。
 - 一夫多妻制が最小限の“補助用の” ことなら → 財産は分けれること。
それがなければ → 財産は分けれないこと。(col.9)
- ∴ 2分法した階層化と物質的な形態の變數の生産として計算される各各の社會に対する相互作用の条件を追加

para7

- labor-valueモデルから獨立的變數 - 生活形態と生活で女性と男性の相對的な勞動投入 (col.5)
 - 農耕でずいぶん依支するが、女性は農耕活動を最小限に成し遂げる場合 ⇒ dowry
 - ・ 農耕活動から彼らの生活の45%以上を得る場合 → 重要な農業
 - ・ それがなければ → 相對的に非農耕的
 - ・ 女性は主に男性たちによって成し遂げた作業の以外の農耕活動で、相當な勞動を提供
- ∴ 二つの獨立的變數(農耕の依存と女性の勞動)の生産として相互作用の条件を説明

P.366

para1

- ◇ Boserupはモデルの2番目演算化を提供
 - plow-based農耕體制：男性勞動に主に依存 ← 身體的苦勞を含むために

- ⇒ dowryの根本的な理由で耕作をみなす。
- 女性が自身が持つ援助の一部を提供して、それにとって生活保証物を“買う時”、
 - dowryは発生
- ◇ 核心の独立的變數(女性の農耕活動)は民族誌 Atlasで直接的にコード化した。
- ◇ 農耕の依存は先の内容にコード化した。農耕の種類(col.39)は2番目の独立的變數として女性の労働を代わる。
 - 耕作が“原始的” or “よく確立した” ことでコード化したら → plow-based農耕
 - 相互作用の条件は二つの独立的變數の生産に算出

Analytical Techniques 分析方法

para2

- ◇ BMDP(Jennrich & Sampson)によって提供したJackknife判別分析：二つのモデルの豫測的精密度の測定に関する重要な統計手段 (by 筆者ら)
 - 独立的變數の設定で依存する判別分析は一つの從屬的變數(dowry)の存在 or 欠乏を豫測するために均等化を提示
 - ⇩
 - 事例別基礎 dowryの實際的存在 or 欠如とともに、その豫測を比較 → 豫測的なモデルの有用性を評価
 - 各々のモデル又は演算化を評價する判別式分析：2回行う。
 - ⇒ 全世界の社會を對象-1回、地中海回りと東アジアの社會を對象-1回

para3

- ◇ モデルの豫測的失敗 → モデル化の欠点よりはコード化の欠点が原因であった限界を評價
- ◇ SchlegelとEloulは標準比較文化サンプル(SCCS)-民族誌Atlasの1267社會中186-に対する結婚賣買コードを確かにするために本来の民族誌出處を再照明
 - ⇒ (直接的な)dowry 有無を考慮することとともに、186 SCCS 社會中 8を再コード化

para4

- ◇ 各々のモデルに対して、1267個の社會のデータ設定のすべてに判別式分析を成し遂げる。(186 社會の SCCS サブサンプルの不正確なバージョンを含む)
 - ⇩
 - 一番目モデルの精密度判断 ⇒ 豫測的確率が正確する。
 - ⇩
 - SCCSの186社會に対する豫測で焦點を合わせる。
 - ⇩
 - モデルの豫測は間違いがはっきりしたその社會を確認
- ◇ 完璧なモデルは186の SCCS 社會の間で8個のdowryと關聯されるコード化間違い(=8個の豫測間違い)を発生 → コード化間違いを追加的に發見するために確率論(Polimeni & Straight)使う。

Results

P.367

para1

- ◇ 事前作業はdowryが地中海回りと東アジアの社会には必ず禁止したことを立證
- ◇ 女性競争モデルはdowryが重要な社会階層と非一夫多妻の結婚体系とともに社会で制限したことに豫測
- ◇ Table 35.1 - dowryの実際の分布が豫想した方向から外れることを提示
 - ⇒ 全體的に994個の社会が存在、994個の社会中1%未満がdowryを成し遂げていることで報告される。
 - しかし、階層化した非一妻多夫制の社会には37.5%が規範化

para2

- ◇ dowryの分布 - Table 35.2と35.3からlabor-valueモデルの二つバージョンに対して提示
 - labor-valueモデルは農耕的社会でdowryを豫測 → 低い女性生活の労働を所有
 - 本稿にはdowry場合の向上した比率を提示：女性労働 9.6%、plow-based農耕 21.8%
 - 女性競争モデルに対する数値は37.5%に至らない。
- ◇ 三つのTableはrandomに重要な偏差を表す → モデルが資料でもう当たるを提供することを評価するために判別式分析に着手

Evalutiom of the Models

para3

- ◇ labor-valueモデル、女性競争モデル - dowryの実際の発生を豫測することに対するよりよい機會的な基礎を提供
 - labor-valueモデルとの対照から女性競争モデルは豫測的精密度で優勢

P.368

para1

- ◇ Table 35.4はlabor-valueモデルと女性競争モデルの遂行と豫測的精密度の一番目方法に関して比較
- ◇ 地中海の周縁部と東アジアで(誤差率はすべてのモデルに対して高い) 女性競争モデルは全體的誤差率の16.9%で同然に優勢 → この地域でlabor-valueモデルの二つ演算化は約2倍ぐらい高い33.9%~37.5% 間の誤差率を持つ

para2

- ◇ 豫測的精密度の2番目の測定に着手 → 二つモデルから SCCS 社会内でdowryコード化に対する間違いを確認 (Table 35.5) ← 女性競争モデルはもう能率的にそれを確認
- ◇ 女性競争モデルは186の社会に対して、ただ13個の豫測的間違いを持つ (その中で6個はデータ間違いによること) ⇒ 豫測錯誤は 8/186で非常に成功的 (* 附録参考)
- ◇ labor-valueモデルの間違い命中率は5/47で、成功の中間段階に評價

Discussion and Conclusion

P.369

para1

- ◇ 検査したすべてのモデルはよく実行 → labor-valueモデルは地中海の周縁地域と東アジアの社会の5/8でdowryの発生に関して正確な豫測を引き起こす → SCCSからコード化間違いを確認
- ◇ 女性競争モデル - 全世界社会(地中海回りと東アジアの83%)の約95%でdowryの発生を

正確に豫測、極度の効率とともにSCCSからコード化間違いを確認

para2

- ◇ dowryは計測分化した(他のところより非一夫多妻制社会)ところで約50倍もう一般的
→ 女性が財産を追加的な妻の獲得によって半減されない程度で富裕な夫に対してdowryを通じて競争すると假定からこのパターンを豫測
- ◇ dowry社会は典型的に耕作農耕、生活に女性の低い寄与(Boserup)、男性の性向を最小限にする相續冠禮(Goody)を持って、ユーラシアの西、南、東側にもう多い又はもう少なく制限(Jackson & Romney)

para3

- ◇ dowryは國家と國家に近い段階の社会の設定を地理的に確かに記述した慣習の獨特な複合部分 → 一夫一妻制と社会階層の分化の同時発生はこの社会の設定から主に制限
- ◇ 女性競争モデルが正確すれば、中間階層から上流階層まで耕作のために相當なdowry支払いを説明すべき。

para4

- ◇ なぜ、多い階層化されるかと、非一夫多妻制の社会からdowry欠如のパズルを残る。
- ◇ 質問の一つ方向 - 複雑な流行と直系世代の収入のような、配偶者に対して、女性競争の他の可能性の形態を検討 ← この代案はdowry体系を通じて女性によって選擇されること。
⇒ 結婚相手の選擇でもっと大きな個人的自律とか經濟的安定の高い段階と自立を暗示するために
- ◇ dowryは配偶者に対する女性競争の選擇的な形態が求められない階層化した非一夫多妻制社会に制限 - 女性の職場から除外(∴収入競争を防止)、結婚が家族によって決って個々の決定がない社会(∴個人的表現を通じる競争を挫折させる)

P.370

para1

- ◇ dowryに対する未來研究のための二つの方向
 - ① それはだれがだれのためにどれほどたくさん支払っているかを發見するための詳細な社会の内部研究を行う。
 - ② なお一層高い比較文化研究は女性競争の選擇的形態に見える非一夫多妻制社会の階層化でdowryは一般的ではないことを説明する。

36. When are husbands worth fighting for?

P.372

para1

- ◇ dowryモデルの説明の展開と検討 ← 重要な女性間の競争を進めた要素を説明するため
- ◇ bridewealth- 重要な生殖機會に対する男性間の競争の様相として解析 ← 社会科學者たち
⇒ 反對の場合に女性間の競争の重要な要素が表すことになるかと假定を提示することが適切に見える。
- ◇ 筆者ら：“なぜ、女性たちは男性に対して今まで競争するべきか?”

→ Oriansの“一夫多妻制の發端モデル”とAlexanderの“社會的に強要される一夫一妻制”の概念から形成した非一夫多妻制社會の階層化の中で發展する新しいmating dynamicを通じて説明したいこと。

para2

◇ Dickemannの批判は焦點から間違ったことに見える。

- dowryが新婦の親によって提供されたから、女性間の競争を意味しないと主張
- 筆者らの分析は女性自律の限界を間違って表現することで判断

para3

- 民族誌のデータベースの信頼できない特徴を強調 → データベースには體系的階層の性向と無数な間違いが存在
 - ・ データの間違いが任意の混線を表示? ⇒ 筆者ら、誤差の影響を検討 → SchlegelとEloulが矯正な標準比較文化サンプルはdowryモデルでもう適される。
 - ∴ Dickemannの意見がすべて正しいとしても、筆者らのモデル or 方法には適切な批評をすることはしない。

P.373

para1

◇ 比較文化研究から分かれるケースで扱った社會 - 相互作用の歴史を持つ

⇒ 相互作用が複合的な傳播の設定の特徴を引き起こす → 特徴とその設定の間からの結果として統計上の關聯は機能的關係に対して間違った判断をした可能性が存在

∴ 民族誌Atlas、標準比較文化サンプルから該當のモデルを検討

◇ 女性競争モデルは二つのデータ設定から等しく成し遂げる

para2

◇ Schlegel - dowryの原因と結果、間接的なdowryで焦點を合わせる。

- このシステムが相當な私有財産が存在するところから發生して、彼らは血族内でこの財産をまとめるために共に助けると主張
- dowryと間接的 dowryが競争を作ることで判断
- 筆者ら、dowryは競争の出現、すでに競争する値うちがある財産を除外しては、絶対現れないことと、dowryが新婦の家族が支払って、間接的なdowryは新郎の家族が支払うことには同意できない。

para3

◇ Lang - 筆者らのモデルを評價するためにBoolean分析を使う → 筆者らがすべての階層化した、非一夫多妻制の社會はdowryを持っていたと主張したと考える。

∴ 筆者らは、それは女性間の競争によって特徴されると主張

◇ 筆者らの主要な目標：なぜ、女性は配偶者に対していつも競争するべきかに関して説明するために → そんな女性間の競争の出現の一つとしてdowryを判断したが、ただdowryだけが該當されることはない。

para4

◇ Langら - 女性間の競争モデルよりはdowry自體のモデルに關心がある。

◇ 筆者ら、女性間の競争の二つの選擇的モードを提示：誠意を尽くしたファッションと直系世代の收入

- ファッション：傳統的とか、現代的とか、すべては長く続く持出を求めることになって、

相當な、財産とともに魅力が潜在される配偶者に注目することになる。

- 直系世代の収入：女性自然に教育と地位、身分的自由を持つことになる時、むしろ彼女たちの経済的潜在力(大學教育のような)によって最上の夫を誘引できる。

P.374

para1

- ◇ 文化内での比較を参照 ⇒ dowryが一番富裕な夫に対する女性たちの競争を現れば、dowryの重要性は新婦の富より夫の富ともっと密接するように關聯される。
- ◇ dowryの慣習を最近中止した社会もある ← 三つの原因として分析
 - 社会階層の顯著な減少
 - 女性自律の重要な増加
 - 収入世代のような女性間の競争の選擇的な形態を伴う發展

para2

- ◇ 筆者らが考える女性間の競争の概要以外の他の展開 - LowはHamiltonの“病原菌理論”の性的繁殖を参考 ← いい遺傳子の性的選擇は最適の配偶者として少數の疾病抵抗の男性に集中するための女性の好みをうながす ⇒ この過程から一夫多妻制が促進
 - ∴ 女性は男性の遺傳子よりもっと持續的な方向で利用できる財産のために、男性の遺傳子より財産を通じて競争することになる

para3

- ◇ Laura Betzig - 筆者らのモデルで適する改善を求める
 - ↳ 階層化の結合と非一夫多妻制の結婚が富裕な男性の財産の獨占的な權利に関する女性間の競争を發生させると主張
 - 共同妻についてはなく、共同妻の子息の相續要求からの財産の保護
 - ∴ despite 一夫多妻制から競争を發生させる
 - 主要な觀點は一夫一妻制に財産の流れがどのようか、結婚の形態ではない。

para4

- ◇ 本論文の一番重要な考え方
 - 富と權力の違いが一夫多妻制とともに發生する稀釋から保護されなければ、新しいmating dynamicは女性がこんな財産の不均衡の分配を制御できる男性と長期間の婚姻を形成して生殖的に得ることができることから出現する → 比較的高い段階の女性間の競争を發生 → 女性間競争の特別な手段を成し遂げる要素のもう正確な形式化に發展
 - 文化の變化内でdowryに対して説明するためにこのモデルを適用する。